

OKAMURA REPORT

第83期報告書

2017年4月1日 ▶ 2018年3月31日 | 証券コード：7994



物流



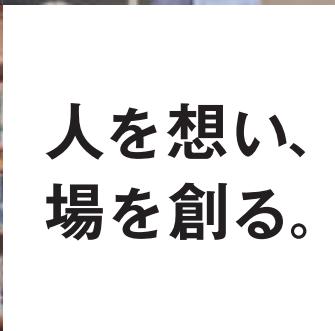
オフィス・建材



ホームインテリア



学校・図書館 (協力: 味の森あらかわ)



人を想い、
場を創る。



劇場 (協力: 松竹株式会社・株式会社歌舞伎座)



ヘルスケア・研究施設



商環境



パワートレーン

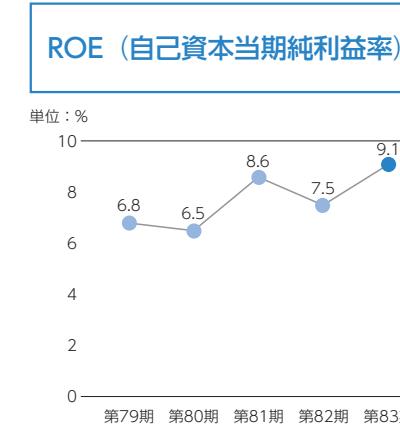
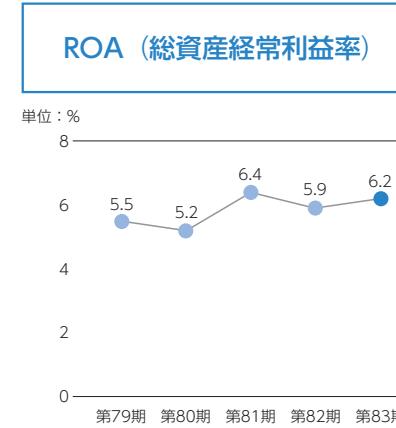
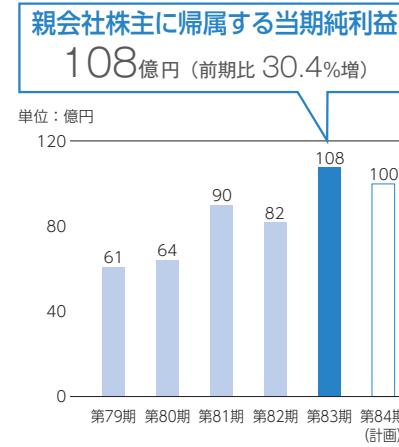
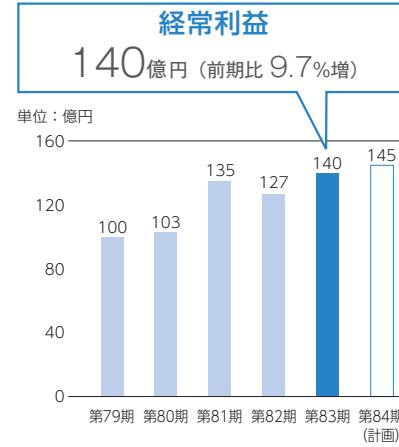
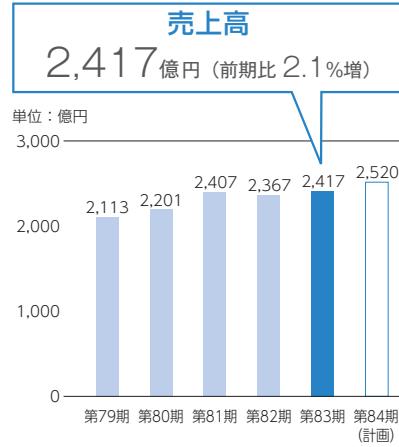
OKamura

OKAMURA At a Glance

決算のポイント

- オフィス環境事業は移転やリニューアルの需要が増加。
- 商環境事業は資材価格の上昇などにより減益。
- 物流機器事業は自動倉庫の拡販に注力し大幅に収益改善。
- 最高益更新。働き方改革と総提案力を強化。

決算ハイライト



事業別ハイライト

売上高 1,285億円 営業利益 97億円

売上高 959億円 営業利益 24億円

売上高 172億円 営業利益 8億円

オフィス環境事業
53.2%

商環境事業
39.7%

その他
(物流機器事業他)
7.1%

下半期ニュース&トピックス



コーポレートメッセージ

人を想い、場を創る。

オフィス、商環境、物流、さらにその先へ。
 オカムラは、人が集まる場に新しい価値を創ります。
 もっと、創造力が高まる。効率が上がる。
 快適に、健康にすごせる。そんな場を実現したい。
 オカムラは人を想い、人が生きる場を創っていきます。



代表取締役社長 **中村 雅行**

当期の概況についてお聞かせください。

国内経済は、企業収益や雇用環境が引き続き改善傾向にあり、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、特徴ある製品づくりやトータル・ソリューション提案による新しい市場創出、各事業分野でのシェア拡大と新規顧客開拓に努めるとともに、生産性向上やコストダウンを推進してまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、過去最高の241,752百万円（前期比2.1%増）となりました。

損益面につきましては、営業利益は13,142百万円（前期比11.2%増）、経常利益は14,000百万円（前期比9.7%増）、

親会社株主に帰属する当期純利益は10,820百万円（前期比30.4%増）となり、最高益を更新いたしました。

事業別セグメントの概況についてお聞かせください。

▶ オフィス環境事業

オフィス環境事業につきましては、大規模オフィスビルの供給は短期的な端境期にあり、大型移転案件の減少が見られたものの、業績が好調な企業を中心としたオフィスの移転需要及びリニューアル需要が増加いたしました。このような状況のもと、オフィスでの働き方改革や健康への関心の高まりに対する新しいオフィス環境づくりを積極的に提案し、前連

結会計年度に比べ、売上高、利益ともに増加いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は、128,515百万円（前期比3.3%増）、セグメント利益は、9,782百万円（前期比10.2%増）となりました。

▶ 商環境事業

商環境事業につきましては、食品スーパー、ドラッグストアなど業績が好調な小売業界を中心に、店舗什器、カート機器、セキュリティ製品など総合力を活かしたトータル提案を強化し、冷凍冷蔵ショーケースのシェアアップやコスト低減に努めましたが、年度後半には需要が低迷し、また資材価格が上昇したこともあり、前連結会計年度に比べ、売上高は横ばい、利益は減少いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は、95,956百万円（前期比0.3%減）、セグメント利益は、2,487百万円（前期比18.0%減）となりました。

▶ その他（物流機器事業他）

物流機器事業につきましては、食品、医薬、通販などの有力分野や自動倉庫の拡販に注力するとともに、人手不足に対応した省人化の要望に対し、提案力と優位性のある製品の強みを最大限に活かした積極的な営業活動に努めたことにより、前連結会計年度に比べ、売上高、利益ともに増加いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は、17,280百万円（前期比7.3%増）、セグメント利益は、872百万円（前期は98百万円のセグメント損失）となり、大幅に収益改善を達成いたしました。

今後の見通しについてはいかがでしょうか。

当社は、2018年4月1日付で「株式会社オカムラ」に社名を変更し、オカムラのミッションを「豊かな発想と確かな品質で、人が集う環境づくりを通して、社会に貢献する。」と明文化いたしました。社名とブランドを統一することで、トータルソリューション企業への変革とグローバル化の更なる推進を図るとともに、企業価値の持続的な向上に向けた取り組みを強化してまいります。

当社グループは、競争力・特徴のある新製品の開発、総合力を活かしたソリューション型ビジネスの積極的展開により、事業競争力の強化を図り、売上高、利益の拡大を目指してまいります。

配当金についての基本方針

当社は、株主の皆様への適切な利益還元を経営の重要政策のひとつとして位置付けております。

利益配当政策につきましては、業績に応じた適正な利益配分を目指すとともに、財務状況、将来の事業展開及び内部留保などを総合的に勘案し、安定配当の維持にも努めてまいりたいと考えております。

■ 配当金

83期 期末 **14円**
 (年間26円)



※ 第81期期末につきましては、創立70周年記念配当4円を含みます。

働き方改革

オカムラは、従業員の健康を重要な経営課題と捉え、健康経営を具体的に推進するために「健康経営宣言」を2017年9月に制定しました。

オカムラ健康経営宣言

オカムラは、健康と安全に配慮した職場づくりに努め、社員一人ひとりの多様性を尊重した上で、それぞれが働き甲斐を感じ、互いに協力し自己成長できる環境整備を進めています。人と社会に最適な環境を提供しつづけることを通じて、社会から信頼され愛されるグローバル企業を目指しております。また、オカムラは、お客様へ健康的な働き方を提案する企業として、社員一人ひとりの成果を最大限に引き出すためにも、心身の健康の保持・増進を推進していくことを宣言します。

● ワークライフバランスへ向けた取り組み

従業員がさまざまなライフステージにおいて生活とのバランスを保ちながら仕事を継続でき、また、家庭や地域などにおいて充実した生活を送ることができるよう、諸制度の充実を図っています。

2016年4月にワークライフバランス推進委員会を設置し、従業員一人ひとりが健康で豊かな生活を送ることができるよう、具体的な取り組みの検討を進めています。



● ダイバーシティ推進プロジェクト

「ソダテルプロジェクト」

2016年4月の女性活躍推進法施行を機に、女性をはじめとする多様な人材の活躍促進ならびに仕事と生活の充実、キャリア形成ができる組織風土を実現させることを目的として、同年8月にダイバーシティ推進プロジェクト（愛称：ソダテルプロジェクト）を設置しました。これまで、オカムラの女性活躍の目指す姿の実現に向け、モチベーション向上、コミュニケーションサポート、多様な働き方の導入の3つの重点課題ごとにタスクチームを発足させ、ワークショップの開催をはじめとするさまざまな施策を実施してきました。

2018年1月には、これまでの活動や各本部役員のメッセージを『ソダテルBOOK』としてまとめ、グループ全従業員に配付し、意識の向上と活動の浸透を図りました。今後



は「多様性の受容」の視点から、さらに活動の幅を広げていく予定です。

制度面では、在宅勤務制度の導入、フレックスタイム制度をコアタイムなしに変更、短時間勤務者のフレックスタイム制度の適用などを実現。他拠点勤務の推進も行っています。

● 業務改善・意識改革プロジェクト

「働き方カエル! プロジェクト」

従業員が自らの働き方を見つめ直し、変えていく、業務改善・意識改革プロジェクト「働き方カエル! プロジェクト」を2017年4月に発足。モデル職場を設定し、その取り組みを全社へ展開しています。それぞれの拠点で定期的にミーティングを開き、まず課題を抽出し、施策を決定、具体的に運用していきます。例えば、会議時間の短縮やICTの活用による業務の効率化・コミュニケーションの改善、意識改革のための施策など。制度・システム等の改善については、関連部門にて対応を検討しています。

項目	2017年4月	2017年7月	2017年10月	2018年1月
会議時間の短縮	達成率 80%	達成率 90%	達成率 95%	達成率 100%
ICTの活用による業務効率化	達成率 70%	達成率 85%	達成率 90%	達成率 95%
コミュニケーションの改善	達成率 60%	達成率 75%	達成率 80%	達成率 85%
意識改革のための施策	達成率 50%	達成率 65%	達成率 70%	達成率 75%



● シニア社員の活躍促進：定年を65歳に延長

オカムラグループでは、本人が希望すれば60歳以降も働ける再雇用制度を導入していましたが、シニア社員のさらなる活躍促進を目的として、2018年3月より、定年退職年齢を60歳から65歳へ引き上げました。少子高齢化が進む中、経験豊かなシニア人材が高いモチベーションを持って働くことができるよう、環境づくりに努めています。

認定

健康経営優良法人2018
(ホワイト500)



2018年2月20日、経済産業省と日本健康会議が共同で選定する「健康経営優良法人2018（ホワイト500）」に認定されました。

承認

TOKYO働き方改革
宣言企業



2017年12月11日に「TOKYO働き方改革宣言企業」に承認されました。

TOPICS

01

「オカムラGrand Fair 2017」開催

2017年11月8日～11日、ガーデンコートショールームにて「オカムラGrand Fair 2017」を開催しました。キャッチフレーズは「TAKE IT EASY ～まずはやってみよう」。働き方改革に関わる10のキーワードをもとに、さまざまな製品をコンセプト展示しました。この展示会を皮切りに、全国5か所の支社・支店（名古屋、大阪、福岡、仙台、札幌）でもオカムラフェアを実施しました。



人を中心とした働き方改革の3要素

ルール、働く環境も、働く人の視点でバランスよく、より良く



● 働き方改革に関わる10のキーワード

- | | |
|---|---|
| 1 Engagement
愛着と誇りを持って働く | 6 Identity & Productivity
主体性と生産性 |
| 2 Communication
会議のスピード化 | 7 Openness
部門の壁を壊す |
| 3 Focus & Collaboration
集中と交流 | 8 Paperless
ペーパーレスな働き方 |
| 4 Innovation
イノベーションを起こす | 9 Diversity
多様な人材を生かす |
| 5 Well-being
健康に働く、ストレスをやわらげる | 10 Time Management
長時間労働の是正 |

TOPICS

02

「エコプロ2017」出展

2017年12月7日～9日、東京ビッグサイトで開催された「エコプロ2017」において、自然共生と生物多様性に向けたアクション「ACORN」を紹介。木材の良さ、利用の意義などを学ぶ「木育」に関連した製品や、馬搬による木材を活用したホースロギングファニチャーなどを展示。「木育家具」をテーマにしたトークステージや、小学生を対象に展開している「環境授業」なども開催しました。



TOPICS

03

「スーパーマーケット・トレードショー2018」出展



商環境事業本部が最も力を入れる展示会「スーパーマーケット・トレードショー」。オカムラの外部展示会では最大規模の出展です。今年は2月14日～16日まで幕張メッセで開催されました。オカムラブースでは、「魅力づくりと生産性の両立」をテーマに、売場の雰囲気や業務効率の改善を提案。「冷凍冷蔵ショーケース」「商品陳列棚」「カウンター」ほか、多種多様な製品をラインアップし、連日盛況を博しました。

NEW PRODUCT 1

居心地がよく機能的なオフィスを構築
オフィスファニチュアシリーズ
「Lives (ライブス)」

「Lives」は、オカムラが2017年、オフィスワーカー1,000名を対象に実施した「はたらき心地」についての調査結果をもとに開発されました。「ユニットソファ」「ワークチェア」「パーソナルチェア&テーブル」「ネ스팅グチェア」「フォールディングチェア」「シェルフ」「パネル」「カウンター」の8つのアイテムからなるファニチュアシリーズです。これらを組み合わせることで、ワーカーそれぞれが居心地が良く機能的と感じられるような、さまざまなスタイルのオフィスを構築することが可能です。



NEW PRODUCT 2

書類やファイルだけでなく、文具やサンプルなどの収納にも最適
電動モービルラック「Sonicsaver+G (ソニックセイバー プラスG)」



電動移動書庫「Sonicsaver」に新機能を追加しました。「Sonicsaver+G」のGは、GARAGE (ガレージ) の頭文字。書類やファイル収納向けの従来の移動書庫に、引き出しや陳列用パーツをセットすることで、ガレージのようにあらゆるものを整理して収納・陳列できます。作業中センサーが稼働することで通路内の安全を確保できる安全機能は、従来同様に標準装備しました。オフィスだけでなく設計事務所やデザイン事務所でのデザインワークをサポートし、執務空間に合った快適な環境づくりをサポートします。

NEW PRODUCT 3

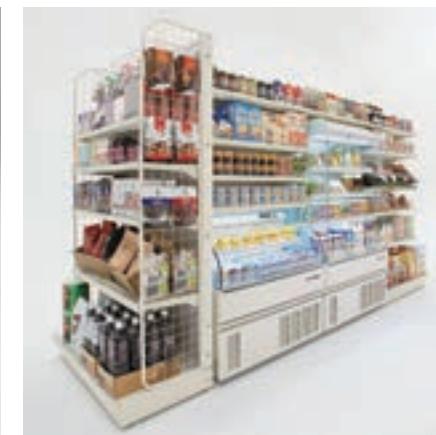
ラグジュアリー空間に癒しと集中の場を創造
ラウンジシステム「LUXSYS (ラグシス)」

「LUXSYS」は、高級感と機能性・施工性を兼ね備えた、組み合わせ自由なラウンジ向けシステム家具です。造作家具の多かったラウンジ空間において、パネルやソファなどのアイテムをモジュール化し、システム家具にしたことで、導入までの設計打合せや施工時間、コストの縮小を実現。ソファブースにはパネルや電源コンセント、荷物を置けるスペースなど、ワークスペースとしての機能を備えています。時には視線を気にせず集中し、時には重要なビジネスパートナーとコミュニケーションをとるなど、現代のエグゼクティブをサポートする上質な空間をコーディネートします。



NEW PRODUCT 4

冷蔵商品と常温商品を組み合わせる陳列可能
冷凍機内蔵型ショーケース「 Gondraイン ケース」



「Gondraイン ケース」は、スーパーなどの店舗で最も多く採用されている Gondra のサイズ 900W×450D (mm) に合わせて設計した冷凍機内蔵型ショーケースです。前面排気機構により周辺商品への排熱の影響を防止、さまざまな売り場で冷蔵商品と常温商品を組み合わせる陳列でき、関連商品を同じ売り場に陳列する手法「クロスMD (マーチャндаイジング)」に最適です。 Gondra と冷凍冷蔵ショーケースのどちらも製造・販売するオカムラならではの技術と発想で、一体感のある美しい売り場づくりをサポートします。

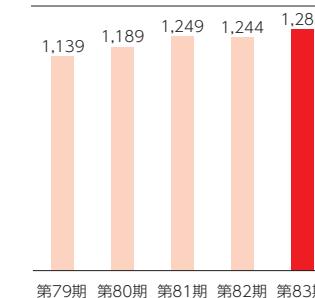
	第79期 (2014年3月期)	第80期 (2015年3月期)	第81期 (2016年3月期)	第82期 (2017年3月期)	第83期 (2018年3月期)
主な経営成績 (百万円)					
売上高	211,363	220,130	240,794	236,776	241,752
営業利益	9,454	8,766	12,960	11,815	13,142
経常利益	10,067	10,347	13,590	12,761	14,000
親会社株主に帰属する当期純利益	6,113	6,422	9,067	8,295	10,820
純資産	93,229	103,544	108,491	114,249	125,585
総資産	190,913	207,387	217,485	218,741	235,765
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,868	7,463	13,870	11,439	12,059
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,104	△ 6,487	△ 6,896	△ 9,153	△ 7,665
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,948	△ 3,296	△ 2,114	△ 4,184	△ 3,870
1株当たりデータ (円)					
純資産	842.80	936.59	980.32	1,032.06	1,136.82
当期純利益	55.49	58.30	82.31	75.30	98.23
配当金	17.00	17.00	24.00	24.00	26.00
主な指標					
売上高営業利益率 (%)	4.5	4.0	5.4	5.0	5.4
自己資本比率 (%)	48.6	49.8	49.7	52.0	53.1
ROA (総資産経常利益率/%)	5.5	5.2	6.4	5.9	6.2
ROE (自己資本当期純利益率/%)	6.8	6.5	8.6	7.5	9.1
PER (株価収益率/倍)	16.3	16.6	13.1	13.1	14.8
配当性向 (%)	30.6	29.2	29.2	31.9	26.5

→ 財務データに関する詳細な情報は当社ホームページよりご覧いただけます。<http://www.okamura.co.jp/company/ir/>

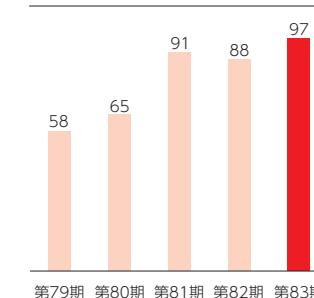
オフィス環境事業 | Office Furniture



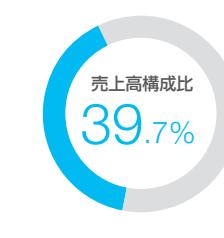
売上高 単位: 億円



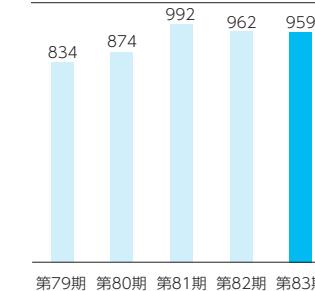
営業利益 単位: 億円



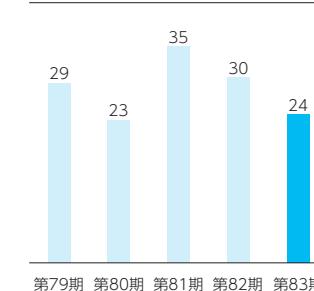
商環境事業 | Store Displays



売上高 単位: 億円



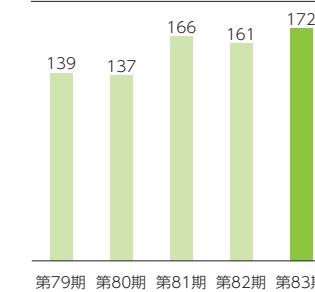
営業利益 単位: 億円



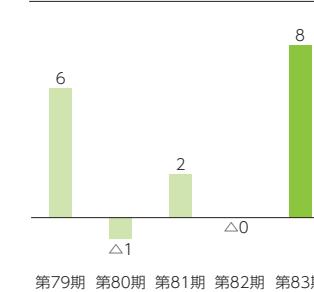
その他 (物流機器事業他) | Material Handling Systems and Others



売上高 単位: 億円



営業利益 単位: 億円



株式の状況

発行可能株式総数	400,000,000株
発行済株式の総数	112,391,530株
株主数	5,385名

所有者別株式分布状況



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	11,151	10.11
三菱商事株式会社	6,300	5.71
オカムラグループ従業員持株会	6,032	5.47
明治安田生命保険相互会社	5,437	4.93
新日鐵住金株式会社	5,313	4.82
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,220	4.73
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,805	4.36
三井住友海上火災保険株式会社	4,236	3.84
株式会社横浜銀行	4,076	3.69
オカムラ協会持株会	3,641	3.30

(注) 1.持株比率は、自己株式(2,066,010株)を控除して計算しております。
2.株式会社三菱東京UFJ銀行は、2018年4月1日付で「株式会社三菱UFJ銀行」へ商号変更しております。

会社概要

設立	1946年7月
資本金	186億円
登記上本社	横浜市西区北幸二丁目7番18号
本社事務所	横浜市西区北幸一丁目4番1号
従業員数	3,326名

取締役及び監査役 (2018年6月28日現在)

地位	氏名	担当または主な職業
代表取締役社長	中村 雅行	
専務取締役	佐藤 潔	管理本部長
専務取締役	菊池 繁治	オフィス営業本部長
専務取締役	土志田 貞一	企画本部長
常務取締役	岩田 寿一	ヘルスケア事業本部長
常務取締役	山本文雄	商環境事業本部長
常務取締役	山本 健一	生産本部長
取締役(社外)	田中 格知	三菱商事(株)常務執行役員金属グループCEO
取締役(社外)	浅野 広視	
取締役(社外)	伊藤 裕慶	(株)キーストン・パートナーズ 社外監査役
取締役	小熊 誠次	デザイン本部長
取締役	金子 肇	海外営業本部長
取締役	井上 健	商環境事業本部東日本営業本部長
取締役	田尻 誠	物流システム事業本部長
取締役	牧野 博	テレコム営業本部長
取締役	酒徳 真司	商環境事業本部西日本営業本部長
取締役	河野 直木	オフィス営業本部首都圏営業本部長
取締役	荒川 和巳	マーケティング本部長
監査役	守分 宣	
監査役	荒谷 克典	
監査役(社外)	鈴木 祐一	弁護士
監査役(社外)	岩本 繁	公認会計士

工場施設

追浜事業所 (神奈川県横須賀市)	つくば事業所 (茨城県つくば市)	高島事業所 (山形県東置賜郡高島町)
富士事業所 (静岡県御殿場市)	御殿場事業所 (静岡県御殿場市)	中井事業所 (神奈川県足柄上郡中井町)
(株)関西オカムラ (大阪府東大阪市)	(株)山陽オカムラ (岡山県高梁市)	(株)エヌエスオカムラ (岩手県釜石市)
鶴見事業所/シーダー(株) (神奈川県横浜市鶴見区)	(株)富士精工本社 (石川県能美市)	Siam Okamura Steel Co., Ltd. (Bangyaparak, Phrapradaeng, Samutprakarn, Thailand)
砂畑産業(株) (東京都足立区)	杭州岡村伝動有限公司 (中国浙江省杭州市)	東莞誠美家具有限公司 (中国広東省東莞市)

関係会社

(株)関西オカムラ	(株)オカムラ ビジネス サポート
(株)オカムラ物流	砂畑産業(株)
(株)オカムラ サポート アンド サービス	Okamura International (Singapore) Pte., Ltd.
(株)エヌエスオカムラ	上海岡村家具物流設備有限公司
(株)山陽オカムラ	Salotto (China) Limited
(株)エフエム・ソリューション	Siam Okamura Steel Co., Ltd.
(株)ヒル・インターナショナル	Siam Okamura International Co., Ltd.
シーダー(株)	杭州岡村伝動有限公司
(株)富士精工本社	PT. Okamura Chitose Indonesia
セック(株)	
(株)Td Japan	
	(他14社 合計34社)

主なショールーム・博物館

オカムラ ガーデンコートショールーム	(東京都千代田区紀尾井町)
オカムラ 仙台ショールーム	(仙台市青葉区花京院)
オカムラ 名古屋ショールーム	(名古屋市中村区名駅)
オカムラ 大阪ショールーム	(大阪市北区大深町)
オカムラ 福岡ショールーム	(福岡市博多区博多駅前)
オカムラVitra店舗用什器ショールーム	(東京都千代田区内神田)
オカムラいすの博物館	(東京都千代田区永田町)

▶ インターネットでオカムラの最新情報をご覧ください。オカムラウェブサイト <http://www.okamura.co.jp/>

オカムラ

検索

株主メモ

決算期

3月31日

定時株主総会

6月下旬

基準日

3月31日

公告掲載新聞

日本経済新聞

株主名簿管理人/特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
☎ 0120-232-711 (フリーダイヤル)
郵送先 〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(ご注意)

株式に関する手続きのお届出先・ご照会先について
○ 証券会社に口座を開設されている株主様は、口座を開設された証券会社等にお問合せください。
○ 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記、特別口座の口座管理機関の連絡先にお問合せください。

混ざり合いのコミュニティから未来をひらくオフィス



メインデスクはエイベックスの新しいブランドロゴからインスピレーションを受け、「リボン」や「メビウスの輪」をキーワードに設計。デスクは高さを変えてハイテーブル、デスク、ベンチとなり、座る場所によって気分も視線も変わる。



デザインテーマ「fun」。
フロア中央に設けられたコラボレーションエリア



上下昇降デスクも設けられている

2017年12月、エイベックス株式会社の「第三創業期」と位置づけた全社的な改革の一貫で、港区・南青山の新社屋がグランドオープンしました。エンタテインメント業界に新しい働き方を提案できる場が創造されました。

新しいオフィスの3つのコンセプトは、「コミュニケーション・コラボレーションが起きる」「働きがいのある」「エンタテインメント企業ならではの機能を備えている」。これを体現したオフィスから、新たなヒットコンテンツを創出し、さらなる驚きと感動を提供することをめざしています。

執務フロアにはフリーアドレスを導入。社内に流動性を生むとともに、部門にこだわらないコラボレーションの促進をはかります。レイアウトは非常に特徴的で、リボンのような流線型の長いデスクが、6Fから15Fまでスパイラルのように連なっています。また各階に「hot」「cool」「fun」「innocent」などのデザインテーマを設け、それぞれに異なる雰囲気演出。気分転換を兼ねて他の階へ行き、交流が生まれることも促しています。

DATA

所在地：東京都港区南青山3-1-30
執務フロア（6F～15F）
内装プロデュース・オフィス設計・
デザイン：オカムラ